

1. 東京におけるエネルギー需給・トランジション

(電力需給・エネルギー)

- 調整力確保につながる **DR**や**蓄電池**、**CGS**等の**普及拡大**を推進
 ➡早期普及に向けた需要家やアグリゲーター等の支援において、どのような工夫や取組が有効か
- 分散型エネルギーリソース等を活用した**VPP****普及拡大**を推進
 ➡再エネ出力制御の抑制など、分散型エネルギーリソースを最大限に活用するため、需給両面においてどのような技術や機器の導入が有効か
- **マイクログリッド**の導入や再エネ熱の**面的融通**などの推進
 ➡まちづくりを通じた再エネ導入などに向けて、都はどのような役割を果たすことが重要か

(地産地消型エネルギーの導入)

- **ヒートポンプ**の活用に加え、**地中熱**や**太陽熱**の利用等を推進
 ➡効果的な導入促進に向けて、どのような取組が有効か。また、熱需要の電化は、どのような分野で、どの程度まで進めていくべきか
- 都内における**再エネ導入**の最大化
 ➡太陽光の導入ポテンシャルが高いとされる建物等における導入を進めていく上で、どのような工夫や取組が有効か

(その他)

- **カーボンリサイクル**を推進
 ➡将来的なCO₂需要を見据えて、どのような分野からCO₂を回収していくべきか。
 また、回収したCO₂を活用する新たなビジネスモデルの構築に向け、どう後押しすべきか

2. 東京における水素の利活用や供給のあり方

(都内における利活用)

- モビリティ等の需要創出と併せた水素ステーションの**一体的導入**の推進
➡商用車等の導入と水素の供給を一体的に創出するため、どのような取組が効果的か
- **産業分野**における**グリーン水素活用**の推進
➡産業分野で利用する様々な分野での水素のグリーン水素転換に向けて、事業者や消費者も含め、どのような取組が重要か
- 都外において製造した**グリーン水素**の**都内利用**の推進
➡福島のF H 2 Rと都の連携などを進めるにあたり、どのような工夫や取組が有効か

(グリーン水素の供給のための仕組みづくり)

- グリーン水素の利用拡大に向けた**国際的サプライチェーン構築**の推進
➡海外都市や企業等との連携をどう効果的に進めていくべきか
- 2030年代以降の海外からの**グリーン水素受け入れ**を見据えた体制の整備
➡川崎地域など近隣との連携も含め、需要創出や将来を見据えたパイプラインの実証など、都として短期的にはどのように取組を進めるべきか
- **グリーン水素**の普及拡大に向けた**取引の活性化**
➡将来の取引所創設に向け、どのような仕組みが効果的か。また、国とはどのように連携していくべきか